

2024年(令和6年)
3月号(第34号)
発行：東志賀学区
連絡協議会



フィギュアと絵贈り合う

住民の「つながり、づくりを願って発行している「東志賀ヒーローズ」。巨匠・岡本太郎に憧れ、創作活動に励んでいる東志賀小6年の真下結太君と、町内会長や防災委員として地域で大活躍する谷口元さん。3月号のトップニュースはヒーローズの記事がきっかけで、世代を越えた縁を育んだお二人の心温まる話題をお届けします。

作家の真下君と町内会長の谷口さん



先日、谷口さんから編集部に「岡本太郎のフィギュアを価値の分かる『彼』にプレゼントしたい」と連絡がありました。谷口さんが言う『彼』とは、昨夏の学区盆踊り大会でポスターのイラストを手がけた真下君のこと。ヒーローズは当時、真下君が岡本太郎に寄せた熱い想いを記事で紹介しました。真下君が通っている絵画教室で開かれたサプライズの贈呈式。谷口さんから岡本太郎の人気作品「犬の鉢植え」のフィギュアを渡された真下君は「えっ！ 本当に良いんですか？ うれしいです」とびっぴり。偶然にも、真下君はこの直前、「犬の鉢植え」をモチーフにした題字のイラストをヒーローズに応募してくれていました。贈呈式の後、2人は作品集をめぐりながら、岡本太郎談義に花を咲かせていました。「ヒーローズのおかげで、良い出会いができた」と谷口さん。真下君は後日、お礼として自作の絵(写真Ⅱ右)を谷口さんの元に届けたそうです。



ヒーローズが育む縁

【これからのヒーローズの編集体制】



身近な話題
住民が取材

*記事や写真のデータをメールや
ラインで米国の編集部へ送信！



鈴木編集長がPCで編集
完成した新聞を学区へ

【身近なニュースを大募集！】

まずは「こんな話題はどう？」という情報を下記の編集部メンバーの宛先にご連絡下さい。

■学区長・山崎悦男さん

☎090(1277)3131

■編集部専用メール

アドレス=heroeshensyuubu@gmail.com

担当・神藤幸美さん、天野美帆さん

創刊以来、住民に身近なニュースを届けてきた「ヒーローズ」。編集長の鈴木龍司さんが勤務先の新聞社の転勤で、2月にアメリカの首都・ワシントンへ赴任しました。「廃刊のピンチ？」との声も出しましたが、住民の後押しを受け、太平洋をまたいで編集することが決まりました。コロナ禍ではLINE(ライン)などのSNS(交流サイト)や、Zoom(ズーム)を使ったオンライン会議が普及しました。編集部では住民の方に取材してもらった記事や写真を、メ

鈴木編集長 アメリカへ転勤

ルを含めたIT技術で米国に送り、編集する方式を採用します。そこで皆さんへのお願いは、ホットな話題の情報提供です。「地域で頑張っている人」「行事の案内」「活動の仲間の募集」ジャンルは問いません。まずは編集部に連絡してください！「パソコンやスマホ、文章は苦手」という方もご安心を。要点的箇条書きや手書きの記事もOK。編集部がサポートします。日本を拠点に編集する地域紙はきつと全国初！ご協力と応援をよろしく願います！

ヒーローズ海を越えて編集へ

今月の題字

編集長が米国ワシントンに移住して、最初の発行となった3月号。記念号の題字は東志賀小学校4年生の加藤紗良さんと松田いろはさんが『かどまつ』のコンビ名で、ひな祭り

電子版新聞

ここから！



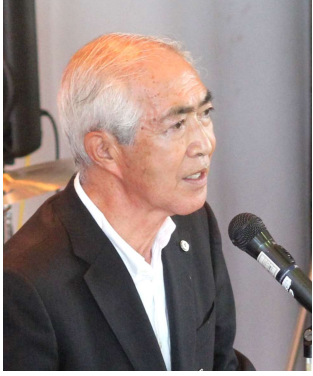
これまでの地域紙「東志賀ヒーローズ」と「ささえあいたより」を読むことができます。

安心な生活、応援する役割担う

令和3年創刊の東志賀ヒーローズは、今月で34号を数えるに至りました。タイトルの絵を子どもたちに描いてもらい、数え切れないほどの地域活動を紹介します。学区のつながりになくてはならない存在で、住民の楽しみ方の1つにもなっています。私は平成28年に学区区政協力委員長(学区長)を岡本茂彦さんから引き継ぎました。住民の皆さんが誇りを持つ地域を

住みよい学区の柱に

そこで、当時、アーバンライフの町内会長に就いた新聞記者の鈴木龍司さん(現・編集長)に「少子高齢化でも人々が安心して暮らせるように、人と人をつ結び付ける新聞があると良いね」と相談しました。こうした経緯で創刊されたヒーローズは、



「ヒーローズ」への思い

寄稿・山崎悦男学区長

ICTと思いで存続

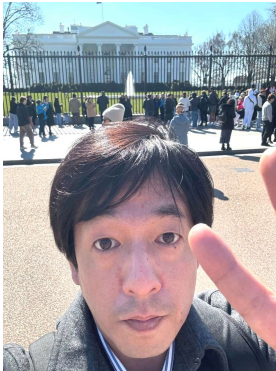
学区の安心な生活を応援する役割を担ってくれています。鈴木さんから米国ワシントンへの転勤を知らされた時は心から喜び、飛躍を願う一方で、驚きと衝撃も隠せませんでした。ICT(情報通信技術)で結び、北区社会福祉協議会さんの協力も得ながら発行を続けていく道筋ができました。存続をうれしく思います。これからも住民で力を合わせて高齢化社会に立ち向かい、安心して住み続けられる町を目指していきましよう。



きりりり ⑤

鈴木龍司さん

2月から本業の新聞記者として米国ワシントンに赴任した鈴木龍司さんに、編集長を務める東志賀ヒーローズへの想いを聞きました。(文章・神藤幸美さん) 創刊のきっかけはコロナ禍に学区長の山崎さんから「地域の住民がつながるための新聞がほしい」と相談を受けたこと。自分のスキルを生かせ、人口1万人ほどの学区の超ローカル新聞から新たな出会いや動きが生まれるのではとわくわくしました。



ヒーローズ編集長続投 渡米後も学区の一員！

回覧板と掲示板で始まった本紙も、今では小学校や保育園でも配布されています。子どもたちからは「あつ、ヒーローズの人だ！」「これも、新聞に載るの？」、年配の方からは「毎月、楽しみにしているよ」と声をかけてもらい、やりがいを感じます。転勤が決まった際、学区の人たちは「みんなで協力してヒーローズを続けたい」と申し出てくれました。最初はこじんまりと始まった新聞が、地域にとつて必要とされるものになってきたことが実感でき、その夜のビールは最高でした(笑)。ワシントンでは日本人が多く暮らし、町内会のあるマンションを選びました。異国で不安を抱えるなか、ホームパーティーに招いてくれたり、生活の困り事を聞いてくれたり。改めて地域のつながりの尊さを実感しています。皆さんの熱い思いと記事を米国でも編集し続けます！

体験して楽しい！ 4月21日 少林寺拳法護身術

4月21日(日)午前10時〜11時半まで、学区の少林寺拳法名法道院(長喜温泉斜め前)で、無料の護身術体験会が開かれます。参加資格は小学生以上。ファミリー大歓迎です。

問い合わせは、名法道院長の鈴木貴博さん ☎090(2132)6316へ。専用の申し込みフォームはこちらから。



ソフト&野球 児童を募集

東志賀ジュニアクラブは、白球を追いかける仲間の児童を募集中。問い合わせは、チームHPの問い合わせフォームから。

